

熊本県立水俣高等学校 令和2年度(2020年度)学校評価表

1 学校教育目標
校訓「自律・敬愛・創造」のもと、互いを認め、励まし、個性を高めあう教育を推進し、知・徳・体の調和がとれ、自ら考え、学び、夢に向かって行動する力を備えた人材の育成をめざす。そのため、全教職員は一体となり、教育者としての使命と愛情を持って、家庭・地域社会との連携を深めながら、魅力ある学校づくりに努め、本校教育の充実・発展を図る。
2 本年度の重点目標
(1) 健全な心身の育成 ア 基本的生活習慣の確立と社会規範意識の醸成を図る。 イ 自主・自律の精神を涵養する。 ウ 他者を思いやり、命や人権を尊重する豊かな心を育成する。 エ 学校行事等の取組をとおして、学校生活への意欲、他者との協調、達成感等の効果につなげる。
(2) 学力の向上と進路指導の充実 ア 授業の充実に努め、「主体的・対話的で深い学び」の実現を図る。 イ 基礎学力の定着と「わかる授業」の実践に努め、学習意欲の向上を図る。 ウ キャリア教育を充実させ、将来の目標設定と進路意識の高揚を図る。 エ 個々の能力・適性・進路目標に応じた個別のきめ細やかな指導に努める。
(3) 保護者や地域社会の期待に応える定時制教育の充実 ア 水高定時制としての自覚と誇りを持たせ、郷土を理解し愛する心を涵養する。 イ 情報発信と開かれた学校づくりに努め、本校教育への理解と信頼を高める。 ウ 商品開発の取組等、地域社会と連携、協力した取組をとおして、社会の一員としての自覚や自信を高め、視野を広げる。 エ 保護者との情報共有を図り、信頼関係に基づいた教育活動に努める。 オ 総合型コミュニティ・スクールをとおして地域と連携した学校運営を図る。

3 自己評価総括表						
評価項目		評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題
大項目	小項目					
学校経営	目標管理による学校運営の推進	学校目標の理解と重点指導の徹底	教育目標の達成のために、定時制の特色を生かした魅力ある教育の実践	教育活動および業務全般においての目標達成度について、評価・反省を行い指導の改善に繋げる。教職員個人と組織の指導力向上のために研修の充実を図る。	B	文化祭や校外研修等の取組についてはアンケートを行い、改善点をまとめた。校外研修等、実施できなかった研修は、資料の配付、回覧を行い補った。
	安全で安心して学習できる教育環境づくりの推進	安全点検および防災教育の徹底	事故防止のための安全管理の徹底 防災に自発的・能動的に取り組む態度を育てる。	教室及び施設等の安全点検を各学期に実施する。 各学期に防災訓練を実施し、生徒の防災意識を高める。	B	安全点検を定期的実施して、必要に応じて修理等を行ったので教育活動に支障はなかった。授業時間を確保して避難訓練も2回実施した。
		保健衛生指導の充実	感染症予防に対する意識の向上と実践力を培う。	チェックシートを活用して、衛生意識の醸成と新しい生活様式への順応に導く。	B	家庭、学校でのチェック体制を確立できた。検温等の習慣化が今後の課題。
	生徒理解の推進	生徒理解と課題・指導の共有化 一人一人の居場所がある学校づくり	個別・最適な指導により学ぶ意欲を喚起させ、自己発見、自己実現を支援する。	面談の実施により生徒の困り感を把握し、年5回生徒理解研修会を実施して情報共有を図る。 関係機関と連携して合理的な配慮を行う等の個に応じた的確な適応指導を行う。	B	担任を中心に面談を実施して、生徒の状況把握に努めた。生徒理解研修で情報を共有して、生徒の困り感を解消するために職員で組織的に対応した。1年生は、中学校との連携強化を図りたい。

	業務改革	業務の効率化	業務の効率化と情報の共有	各分掌において、業務の円滑な遂行を検討する。報告・連絡・相談を徹底すると共に風通しのよい職場づくりに努める。	B	新規の業務が発生したが、各部署で分担を工夫して通常の業務を滞りなく遂行できた。生徒や業務に関する報告も適切になされた。
	働き方改革	職員の意識改革	「公立学校の教師の勤務時間の上限に関するガイドライン」の遵守	特定の職員に業務が集中しないような分業体制を確立 一人1つの働き方改革の実践	B	時間外在校時間は、職員の工夫と協力で前年よりも一月当りの職員平均で4時間程度削減できた。
学力向上	授業力の向上	公開授業・研究授業・授業評価の実施	全職員がそれぞれ1回以上の研究授業を行う。また、ICTを積極的に活用して、主体的な生徒の学習への工夫を行う。	教務部が企画・立案して全教科で取り組み、保護者や近隣の中学校等へ公開実施の周知を行う。また他校の公開授業に積極的に参加する等、教師の研修の機会を確保する。授業評価の結果を早期に分析し授業改善に努める。	B	授業の研究等、各教科で設定して取り組み、授業改善を行った。2学期からは電子黒板を導入し、各教科の指導力向上が図られ、生徒への理解が促された。
	基礎学力の向上	基礎国語等、学校設定科目や基礎科目の充実	学校設定科目や基礎科目で中学校の学び直しを行い、基礎学力の向上を図る。	教務部が企画・立案して、当該年次、当該教科で取り組む。教師の授業力を高め、生徒のやる気を引き出し、主体的な学習を促す。	B	学校設定科目の「基礎国語」や数学Ⅰ、コミュニケーション英語基礎において、基礎的な内容を重点的に行った。3学期には全職員で基礎的な学力の向上の指導を行った。
キャリア教育(進路指導)	個に応じた進路指導の推進	生徒個人の進路目標の明確化と卒業予定者の進路決定と在校生の就労率の向上	卒業予定者の進路保障と在校生の就労率を40%まで高める。商業関係検定受験を勧める。	卒業予定者の保護者と進路面談を実施する。進路部と各担任との連携を深める。商業関係の検定前課外学習を実施する。	B	保護者、本人の意向を尊重した指導を施し卒業予定者を進路決定に導き、就労率を46%となった。検定にも積極的に取組のべ10名が合格できた。
	進路意識の高揚	キャリアパスポートの活用や進路関係行事の実施	キャリアパスポートの活用方法を探る。進路セミナーや進路関係行事等を学期1回程度実施する。	進路指導部が立案し、外部関係機関と連携を密にして全職員で取り組む。	B	キャリアパスポートの作成により自己を見つめ、思考の履歴を残せるようになった。生徒は記入、教師は効果的な活用が今後の課題である。
生徒指導	社会性の向上	登下校時における交通ルール遵守等の規範意識の向上	自転車・原付・自動二輪・自家用車の運転に関して、交通ルール、交通道徳を守り、事故がないことを目指す。	登校指導や学校行事(交通安全教室等)において、生徒指導部を中心に職員全体で取り組む。	B	交通安全教室やHR、集会等で全体的な指導を行い、バイク、自動車通学生には個々に注意をして、交通安全の意識を高めている。
		言葉遣い、時間厳守の基本的生活習慣の確立	それぞれ異なる課題を抱える生徒に対し、基本的生活習慣の改善を目指す。	連絡会や生徒理解研修を踏まえて、毎日の活動の中で職員間の共通理解を図り、職員全体で取り組む。	B	職員が生徒の状況を常に把握し、協働して適切な指導を行い生徒は全体的に落ち着いた状態である。
	健康教育の推進	禁煙指導・薬物乱用防止の徹底	喫煙防止と薬物使用の根絶を目指した指導の実施	喫煙の状況把握と健康に関わる講話を実施して、生徒指導部と保健部との連携により取り組む。	A	薬物乱用防止教室を通して生徒は喫煙や薬物の害を理解し、身を守る方法を学んだ。

人権教育の推進	推進体制の確立と研修の充実	職員の人権意識の向上と深化を図り、生徒の人権意識の向上につなげる。	校内の年間職員研修計画の作成と実施。生徒の特別活動(LHR)等年間計画の作成と実施	今年度は校外の研修が実施されない可能性が大きいので、人権に関する記事を連絡会の裏面に掲載し、職員の人権意識の啓発を図る。人権教育・生徒指導部が立案し、学校全体で取り組む。	B	定時制だけの校内研修を実施した。校外の研修については実施が限られていたので、連絡会で人権教育に関する資料を提供した。
	「命を大切にす る心」を育 む指導の 推進	「命」や「生 きること」の 考察をとお した自己 肯定感と他 者を思いや る心の育成。	「命」の大切 さの認識に よる自己肯 定感の向上 と、他者と 良好な人間 関係を構築 させる。	学校生活を 生徒が安心 して生活で きるよう、 また、授業 や特別活動 において、 生徒が活躍 し、自分の 存在感を感 じることが できるよう な場面を創 るよう、全 職員で常に 意識して取 り組む。	B	特に、「総合 的な学習」 や「特別活 動」におい て、生徒が 活躍し、自 分の存在感 を感じたり 、他者と協 働する社会 性や自立心 、道徳性を 育成できた。
	教科指導 における 取り組み の推進	「分かる授 業」の工夫 と改善	生徒の課題 やニーズに 応じた学習 指導の工夫 をする。	教務部との 連携による 「ユニバー サルデザイ ンの視点 を取り入れ た授業」を 全教科・全 職員で取り 組む。	B	学習プリン トの作成等 の工夫によ り、生徒が 授業に取 り組みやす いような手 立てを講 じた。
いじめの防止等	いじめの未 然防止と事 態への対応	生徒指導部 及びいじめ 防止対策委 員会を中心 とした取り 組み	いじめを許 さない学校 づくり (相手の気 持ちは理解 し、周囲へ の心配りが できる生徒 の育成)	いじめ防止 基本方針に 基づいた計 画的な指導 とともに、 特に6月の 「いじめ根 絶月間」に おいては人 権教育LH Rを実施し 、「心のき ずなを深め る標語」を 生徒に作成 させること でいじめに ついて考え させ、いじ め防止の気 持ちの涵養 を図る。	A	全生徒の前 で生徒会の 代表が、「い じめを許さ ない宣言文 」を読み上 げ全生徒が 「心のきず なを深める 標語」を作 成することで 、いじめに ついて考え ることにな り、全生徒 ・全職員で いじめを許 さない精神 を醸成する ことができた。
			いじめの早 期発見と早 期解決	各学期にお いていじめ アンケート を実施する と共に面談 の充実によ り教育相談 体制の強化 を図る。 情報の共有 化を図り、 いじめが発 生した際は マニュアル に基づいて 全職員で迅 速に対応す る。また、 必要に応じ て外部機関 との連携を 図る。	B	各学期に行 ういじめア ンケートの 結果は今年 度もゼロで あった。 教育相談に ついて、生 徒、保護者 の満足度を 高める取 り組が求め られている。
特別支援教育	生徒の教育的 ニーズに対 応した支援 の推進	個々の生徒 に応じた支 援計画の実 施と、適切 な指導の充 実	支援を要す る生徒への 理解を深め 、個々に 応じた支援 を推進する。 生徒、保護 者の教育的 ニーズを理 解し、合理 的な配慮を 行う。	生徒理解研 修や日々の 連絡会を とおして生 徒の実態を 把握し、職 員の共通理 解を深める。 スクールカ ウンセラー や専門機関 と連携しな がら、支援 の検討を行 い実施する。	B	職員間で日 々の生徒の 状況を情報 共有して、 生徒の適切 な支援につ なげた。ス クールカウ ンセラーや 病院の主治 医とも連携 を図り、合 理的配慮の 検討を行っ た。
環境教育	地域と連携 した環境教 育の推進	「環境首都 みなまた」 実現のため の学校版環 境ISOの取 組	全日制と連 携を図りな がら、学校 版環境ISO 宣言項目の 徹底した活 動を行う。	宣言項目を 基に生徒指 導部を中心 に生徒・職 員全体で取 り組む。ペ ットボトル キャップや コンタクト レンズケー スの回収な ど、地域の 活動に参加 する。	A	宣言項目の 実践に生徒 ・職員全体 で取り組ん だ。ペット ボトルキャ ップやコン タクトレン ズケースの 回収を全日 制と協力し て実施し、 地域の活 動に参加し た。

	学習環境の整備と推進	環境美化意識の醸成と実践力の育成	主体的に学習環境の整備に取り組む生徒の育成	生徒・職員一体となり、教室や多目的室等の清掃活動とともに、エコスクールチェックシートを活用した取り組みを通年で行う。また、環境美化意識強化週間を学期に1回実施して生徒が主体となり日々の清掃活動を振り返り以後の改善に繋げる。	B	コロナウイルス感染予防も考慮し、日々の清掃活動を生徒・職員一体となって行った。また、環境美化強化週間を学期に1回実施し学習環境の整備・環境美化意識の向上を図った。生徒の取り組みに個人差があるため、工夫をしながらの継続指導が課題である。
地域連携(コミュニティ・スクールなど)	家庭・地域への定時制教育の周知	地域住民に対する、定時制教育についての情報発信	学校行事を中心に定時制の教育活動についての広報活動の充実	学校行事や商業科の販売実習をとおして定時制の教育活動を公開する。ホームページを活用して特色有る取り組みを紹介する。	B	文化祭とその中での販売実習を通じて、定時制の教育活動の実際を紹介した。学校行事や講演会等の様子を随時HPに掲載して情報を発信した。
		保護者会の開催と学校行事等への保護者参加の推進	保護者との連携・協力体制を構築	毎月「定時制便り」を発行して学校での生徒の様子を伝える。各学期の終業式および当日のLHRへの保護者を招く。	B	「定時制便り」は毎月発行して、家庭へ送付した。2学期の終業式は感染症対策により終業式への保護者の出席は見合わせた。
		総合型コミュニティ・スクールとしての地域との連携・協力体制の構築	教育活動の改善のための地域連携体制の確立	学期に1回の会合で教育活動の現状を報告して、地域が期待する教育の在り方についての意見を聴取する。	B	会議での助言や文化祭を観覧していただいている生徒への激励等、学校運営に有効な連携・協力体制の基盤ができた。

4 学校関係者評価

(1) アンケート結果について

「水俣高校に入学して(させて)よかった。」という項目の評価が高いということは、職員を信頼して生徒が努力して、職員もまたそれに応えようとしている結果である。

(2) 情報発信とICTの活用について

水俣市における「環境首都みなまた」「SDGs未来都市」の街づくりを担う学校での取組を是非HPや広報誌で積極的に発信が必要。また、コロナ禍でICTを活用して遠隔地との交流を行なうことも多かったが、今後も幅広い交流学习に活用してもらいたい。

(3) 地域が支える学校づくりについて

大学入試等で必要な地域理解に関する情報提供は、市の職員も共に学ぶ機会になるので積極的に活用してほしい。また、水俣市の財政上の補助についても、学校の情報提供の内容に加えてもよいのではないかと。定時制の学習活動のように、地域が学校を支え、生徒の学びが地域に貢献するような循環の構築を今後も期待している。

5 総合評価

(1) 学校教育目標について

新型コロナウイルス感染症により休業、マスク着用、三密回避等の多くの教育活動への制限が加わったが、全ての教育活動の領域において生徒と共に夢を語り、育みながら学びを止めることなく教育目標の達成のために、定時制商業科の教育活動に取り組んだ。生徒も各自で感染症対策を深く考えて、文化祭や販売実習の企画、実施に取り組むなど自主的な学びとその発信に努めた。また、地域との連携も各事業所のご厚意の下、外部講師を招いての授業も実施することができた。

(2) 本年度の重点目標について

基本的な生活習慣の中に検温等の健康調査が加わり、生徒が自身の健康管理を通じて「自主・自律の精神」や「他者を思いやり、命や人権を尊重する」態度を育成できた。ハローワークで自己の適性を学ぶなど、キャリア教育には1年次から取り組んだ。また、全学年キャリアパスポートを作成して、進路決定に際してキャリア形成を振り返る素材づくりも開始した。生徒に「わかる授業」を提供するための指導力向上と授業改善に、今年導入された電子黒板を活用できた。感染症対策のため、学校に訪れていただき定時制教育を公開する機会が例年より少なくなったが、ホームページやPTA新聞、市の広報を通じて情報発信するように努めた。

(3) 自己評価総括表について

学力向上については、生徒理解研修において生徒の学習状況を職員間で共通理解を図った上で通常の学習指導において必要な支援を講じた。進路指導では、ハローワークより講師を招き、労働法の講義を行ない、労働条件について生徒への理解を深めた。生徒指導では、生徒の状況を共有して個々の生徒の必要性を満たす組織的な指導により、生徒に安全で安心な居場所を提供できたことで「いじめゼロ」も達成した。特別支援教育については、生徒理解研修を年間5回開催し、必要に応じて外部機関と連携しながら生徒を支援した。

6 次年度への課題・改善方策

(1) 安心して安全な生徒の居場所としての学校の環境整備

ア 最新の科学的根拠に基づく感染症対策を施しながら、従前と同等以上の教育効果が得られる教育活動を展開する。

イ 防災教育、安全教育のより一層の充実を図り、生徒の意識の高揚と判断力の向上を図る。

ウ 「いじめゼロ」を今後も目指して、人権教育の充実と共に多様性を尊重した教育活動を展開する。

(2) 新学習指導要領の実施に向けて

ア 「商業」教育を核としたカリキュラムに基づき、地域が求める人材を育成する。

イ タブレット端末の効果的な活用により、学力向上に加えて生徒、家庭への学校からの情報提供の円滑化を図る。

ウ 多様な学習履歴を背景とした生徒のニーズに応えられるように、学び直しの指導体制を充実する。

(3) 地域との連携の強化

ア コミュニティ・スクール制度を活用した教育活動の改善。

イ 継続的な生徒や家庭への支援のために、効果的な中学校との連携体制を構築する。

ウ 講師地域の事業所との連携により、プロジェクト学習や安全教育、健康講話等で外部講師として指導を仰ぎ、地域理解を深めながら地域を担う人材を育成する。